

令和5年度鴨川市立国保病院経営強化プラン実施状況評価表

【総括】

令和5年度は介護療養病床の設置期限が令和6年3月31日までとなることから、当該病床を地域包括ケア病床への転換を図り、地域包括ケア病床60床、医療療養病床10床、合計70床とした。

また、地域包括ケア病床の増床に伴い、療養病床の看護師等を地域包括ケア病床に配置し10対1の看護師配置とし、看護体制の充実を図った。

収益的収支は、新型コロナウイルスワクチン接種関連の収益の減、病床転換及び看護師配置の見直しに伴い入院調整を行ったことから、約770万円の損失となったが、当年度未処分利益剰余金として約3,200万円を計上することとなった。

入院患者数は、令和4年度と比較して2,541人の減となっているが、病床転換による入院調整、看護師配置の見直しにより医療療養病床を非稼働としたことが主な要因である。

外来患者数は、発熱外来の受診者数の減があるものの、内科、眼科等の受診者数の増があり、令和4年度と比較して620人の減となった。

在宅部門については、利用者数・収益ともに前年度比で減となったが、訪問診療も含めた在宅部門については、公共交通機関が乏しく、高齢化の著しい当地域において重要な取組みであり、今後も多くの需要が見込まれることから、地域医療を担うために必要な事業として引き続き推進していく。

役割・機能の最適化と連携の強化に関しては、地域包括ケア病床の増床と看護体制の充実により、地域包括ケアシステムの機能の充実を図った。また、高度急性期病院等、在宅からの患者及び救急患者の受入れを行った。

医師・看護師等の確保と働き方改革については、医師・看護師等の確保に努めるとともに、千葉大学、旭中央病院の研修医の受入れ、東京大学、千葉大学、自治医科大学等の学生の実習の受入れも行い、将来的な医師・看護師等の確保につながるよう努めた。また、医師の働き方改革への対応として、宿日直勤務の許可申請を行った。

経営形態の見直しについては、現状の経営形態の中で経営改善に努めた。

新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組みについては、新型コロナ患者の入院を受け入れるとともに、引き続き発熱外来を開設した。また、感染防護具等の必要な備品の備蓄を行うとともに、感染症法に基づく千葉県との医療措置協定について、手続きを進めた。

施設・設備の整備については、新病院建設工事（1期工事）、旧病院解体・外構工事（2期工事）が完了したため、大きな施設整備は行わなかったが、医療機器の更新等を行った。

経営の効率化については、収益の確保と費用の節減のための各種取組を行った。

【数値目標に対する点検・評価】

（令和5年度）

「鴨川市立国保病院経営強化プラン」（期間：令和6年度～令和9年度の4年間）に基づき実施した具体的な取組みは、以下のとおりである。

1 医療機能や医療の質、連携の強化等に関する数値目標

（1）医療機能に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
病床利用率（％）	90.0	73.6	▲16.4	病床転換による入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
入院延患者数（人）	23,387	18,863	▲4,524	病床転換による入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
外来延患者数（人）	39,021	39,221	200	新規患者の受入れに努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
入院患者1人1日当たり 収益（円）	30,692	33,512	2,820	地域包括ケア病床の看護師配置を10：1とし加算を算定した。
医科外来1人1日当たり 収益（円）	9,156	9,300	144	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
歯科外来 1 人 1 日当たり 収益（円）	7,712	7,778	66	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
救急応需率（％）	65.0	57.1	▲7.9	受入体制の整備を図り、救急患者の受入に努めた。
救急車受入件数（件）	520	655	135	受入体制の整備を図り、救急患者の受入に努めた。
休日・夜間・時間外受診 者数（人）	150	178	28	受入体制の整備を図り、救急患者の受入に努めた。
訪問診療件数（件）	1,230	1,283	53	医師を確保するとともに、質的向上も含めて充実を図った。
訪問看護件数（件）	7,200	6,770	▲430	看護師の減、利用者の入院、死亡等により目標値を下回った。
リハビリ件数（件）	9,104	9,196	92	理学療法士を採用し、リハビリ機能の充実を図った。

（２）医療の質に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
在宅復帰率（％）	83.0	78.3	▲4.7	多職種が連携し、リハビリや在宅復帰への環境整備等を実施した。
患者満足度（％）	65.0	92.3	27.3	患者アンケートを実施し、その結果をもとに病院運営の改善に努めた。

（３）連携の強化等に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
紹介患者受入数（人）	150	360	210	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図り、紹介患者の受入に努めた。
紹介率（％）	6.0	16.7	10.7	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図った。
逆紹介率（％）	15.0	19.7	4.7	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図った。

（４）その他必要な数値目標

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
地域医療研修の受入件数 （人）	14	75	61	医学部学生等の実習の受入を行った。
医療相談件数（件）	210	206	▲4	地域の医療機関・施設との連携強化に努めた。

２ 経営指標に係る数値目標

（１）収支改善に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
経常収支比率（％）	100.2	99.4	▲0.8	収益の確保、経費の節減に努めたものの目標値を下回った。
医業収支比率（％）	93.2	92.2	▲1.0	収益の確保、経費の節減に努めたものの目標値を下回った。

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
修正医業収支比率（％）	90.3	89.3	▲1.0	収益の確保、経費の節減に努めたものの目標値を下回った。
資金不足比率（％）	0.0	0.0	0.0	健全経営に努め資金不足は生じていない。
累積欠損金比率（％）	0.0	0.0	0.0	経常損失を計上したが、前年度繰越利益剰余金の範囲内であるため累積欠損金は生じていない。

（２）収入確保に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
延入院患者数（人）	23,387	18,863	▲4,524	病床転換による入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
延医科外来患者数（人）	26,456	26,398	▲58	新規患者の受入れに努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
延歯科外来患者数（人）	12,926	12,823	▲103	再診の患者に加え、新規患者、急患の受入れにも努めた。
入院患者１日一人当たり収益（円）	30,692	33,512	2,820	地域包括ケア病床の看護師配置を10：1とし加算を算定した。
医科外来１人１日当たり収益（円）	9,156	9,300	144	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
歯科外来１人１日当たり収益（円）	7,712	7,778	66	適正な診療報酬の算定、請求に努めた。
１日当たり入院患者数（人）	56.2	51.5	▲4.7	病床転換による入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。
１日当たり医科外来患者数（人）	88.8	90.1	1.3	新規患者の受入れに努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
病床利用率（％）	90.0	73.6	▲16.4	病床転換による入院調整、病棟運営の変更により目標値を下回った。

（３）経費削減に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
材料費対医業収益比率（％）	6.2	7.7	1.5	費用の節減に努めたが、価格改定等の影響により比率が増加した。 医業収益の減により比率が増加した。
薬品費対医業収益比率（％）	2.0	2.5	0.5	費用の節減に努めたが、価格改定等の影響により比率が増加した。 医業収益の減により比率が増加した。
委託料対医業収益比率（％）	9.1	9.2	0.1	費用の節減に努めたが、委託業務の増により比率が増加した。 医業収益の減により比率が増加した。
職員給与費対医業収益比率（％）	62.9	69.8	6.9	医業収益の減等により比率が増加した。
後発医薬品の使用割合（％）	40.7	36.9	▲3.8	後発医薬品の使用に努めたが、供給不足により先発医薬品に切り替える場合があった。

(4) 経営の安定性に係るもの

項 目	目標値	実績値	比較	自己評価
医師数（人）	7	7	0	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
看護師数（人）	39	38	▲1	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
その他医療従事者（人）	23	24	1	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
臨床研修医受入数（人）	13	9	▲4	旭中央病院及び千葉大学の研修医の受入れを行った。
現金保有残高（千円）	397,324	596,627	199,303	業務活動によるキャッシュ・フローが増加したことにより目標値を上回った。
企業債残高（千円）	1,816,363	1,816,363	0	持続的に病院経営を行うために、適正な企業債の発行に努めた。

※医師・看護師・その他医療従事者の人数は年度末の人数。

[用語の説明]

- ・ 経常収支比率
事業に係った全ての経費と事業で得た全ての収入の割合。
 $\text{＜経常収益＞} \div \text{＜経常費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 医業収支比率
医療の業務にかかった経費と医療の業務で得た収入の割合。
 $\text{＜医業収益＞} \div \text{＜医業費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 修正医業収支比率
医業収益からその他医業収益のうち他会計負担金を除いた修正医業収益の医業収益に占める割合。
 $\text{＜修正医業収益＞} \div \text{＜医業費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 累積欠損金比率
医業収益に対する累積欠損金の割合。
 $\text{＜累積欠損金＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 病床利用率
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標。
 $\text{＜年延入院患者数＞} \div \text{＜年延病床数＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 材料費対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める薬品や診療材料の割合。
 $\text{＜材料費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 薬品費対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める薬品費の割合。
 $\text{＜薬品費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 委託料対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める委託料の割合。
 $\text{＜委託料＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 職員給与費対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める職員給与の割合。
 $\text{＜職員給与費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$